

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 31日

事業所名 プレミアム荒江

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		10人として区分けグループ分けをし対処。1人2.47㎡を守っている。	机や、椅子の移動でスペースを作ったり、パーテーションで個室を作っている。
	2	職員の配置数は適切である	○		適切な人員配置をしている。	保育士、児童指導員、児童発達指導員を配置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		床はバリアフリーになっている。	外に点字ブロックがありトイレには手すり完備
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々のミーティング、振り返りを毎日行い周知出来るようにしている。	スタッフや利用者様の一日の動きを把握している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に一回放課後等デイサービス自己評価表を行っている。	アンケートの集計を元に保護者との会話で聞き取りをしていく。気になる点は改善していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて公開している。	スタッフともミーティングし細かいところも見直している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		毎月一回デイチェック、3か月に1度内部監査等を行い改善に繋げている。	指摘があるところは直ぐに改善している。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		内部、外部研修を行っている。	定期的に内部、外部研修を含め実例検討会等を行っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		スタッフや保護者と話をして制作している。	日常の様子、送迎時、担当者会議等で得た情報、保護者様のニーズを含め計画を立てている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントツールに基づきミーティングを行っている。	事業所内で統一した評価表や支援記録なども使っている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		スタッフでアイデアを出し合いながら毎月の活動を立案している。	年間スケジュールをみんなで一緒に考えて案を検討している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節ごとの行事や様々な場所への野外活動を行っている。	三ヶ月で内容を変更している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		過ごす時間に合わせて1日のタイムスケジュールを決めている。	毎朝ミーティングを行っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		大集団、小集団に個別療育を取り入れた支援計画書を作成している。	バランスよく子供たちにあわせ取り組んでいる。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		受け入れ前に毎朝ミーティングをしている。	毎日ミーティングを行い当日スタッフの動きをシミュレーションしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		ミーティングで前日の振り返りを行っている。	気づいた点があったらすぐに改善策を検討している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎日個人の支援記録を書いている。	利用者の様子を細かく記載している
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		基本的にモニタリングは半年1回行っている。	必要に応じては延長、又修正をかけて行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		ガイドラインに沿った基本的活動を取り入れている。	基本的に沿って組み合わせで行っている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達管理責任者が参加している。	勉強の為、児童指導員も参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校送迎時行っている。	毎月の学校スケジュールをHPから引用したり送迎時に学校の先生と申し送りを毎回行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		今は主治医と連絡が必要な児童がいないが今後は連絡体制を整えていきたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		相談支援員から情報共有している。	相談支援事業所を介した情報交換は行っているが保育園からの直接の共有はまだないため行ってきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	今年度は卒業生がいない。	卒業生がいたら情報共有していきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	助言の研修は受けていない	研修に行ける機会があれば参加したい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	現在は交流など出来ていない。	今後野外活動時に地域の公民館などを利用し交流が出来るような場所へ行きたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	現在は参加していない。	今後検討していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		利用時毎に連絡帳でのやり取りや送迎時保護者様と情報交換を行っている。	保護者様とのやり取りが細かいところまで出来なかったら後から連絡している。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		ご利用時にご家庭でも取り入れやすい支援内容を提供している。	保護者様とコミュニケーションを沢山とれるように送迎など工夫している。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に行っている。	必要に応じて保護者様に伝えている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		連絡帳や送迎時に口頭で情報交換を行っている。	送迎時保護者様と色んな会話をしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		今年度もコロナのため自粛していた。今後は年に1回保護者会を開催していく予定。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情窓口を設置している。	契約の時説明している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月に1回新聞を配布している。	活動の写真やスケジュールを掲載している。
	35	個人情報に十分注意している	○		鍵付きのキャビネットにて書類を管理している。	個人ファイルなども鍵付きに保管している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		各個人の連絡帳にて情報伝達している。	個別に管理者が電話や口頭にて対応している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	現在はコロナの為自粛している。	現在はコロナの為自粛している。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		マニュアルをもとにスタッフ間で研修会を行っている。保護者へは災害時の避難場所を周知している。	避難場所のプリントを制作して保護者様にお配りした。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		月に1度活動に避難訓練を取り入れている。	職員間では研修会を定期的に行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		定期的に研修会を行い意識付けしている。	他の施設などで虐待の事件が起きた時は自分達に置き換えて研修を行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		契約書に記載し、契約時に説明している。	しない前提として、もし利用者様に危険がありやむを得ない時は口頭にてお伝えする。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アセスメント時に対応方法を保護者様に聞いている。	スタッフ間ミーティングなどで共有。声掛けなどで気を付けている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットが起きた際にはすぐに検討会を開き、対応している。	その時の様子をシュミレーションし同じ事を繰り返さない様に周知している。